



## 翼持つ想ひ

島田 暉  
(神奈川)

わが頬にぶつかりざまに貼りつきし桜花びら花の霊らし  
てふてふの目を持つ人ら集まりて薔薇の花園さ迷ひ歩く  
桃色の桃のすがたを閉ぢこめて若き女性の顔ほほ多めり  
群れ咲ける木蓮の白き花の間鴉あひ一羽の黒き暴力

木犀はいまだ香りを残すなり贖罪のごと花を散らして

葉を散らし檜や櫟の立ちつぎぬ生きるといふは非凡の凡なり

春姫のパレットよりの滴りが緑さまざま草の萌えだす

電飾を脱ぎしスツピンの街路樹に日暮れ華やぎ小鳥らはしやく

春風は菜の花の花の海揺らしつぎ大地は温む母の香りす

テーブルの脚あしの木組みがうまく合ひ大工が褒める仕合はせ幸せ

こはごはと赤唐辛子食べ終へて口より吐きぬ稲光りの火

翼持つ想ひはとほに離れ失せとほとほ歩む昭和の道を

水槽に泳げる金魚はきゆうくつな鱗をはがし人になるらし

小利口な人さまの世は滅び失せゴキブリ世紀来るとひげ振る

新型のコロナウイルスはびこれり人さまなどはただの虫けら

このごろの私  
このごろの私は身体の一部  
品があちこち弱り病院通いをし  
ています。日によると病院の  
梯子をします。かてて加えて  
最近ではコロナ禍による自粛を  
強いられて、近所の公園をめ  
ぐる散歩がやっとです。



## 小 窓

米沢 和子  
(広島)

このごろの私  
今年の桜は早く咲き早くに  
散ってしまった。桜を見ると  
淋しい気持になるのはいつも  
別れの季節に咲くためか。  
今年はコロナ自粛のせいも  
あって花もひっそりと咲きひ  
っそりと散った気がする。

「年老いたアムールトラが寝ています。静かにしてね」と園の貼り紙

いつせいに蝶の飛び立ついきほひにビオラが咲きぬ 春は来にけり

樹々の香を運び来る風マスクして小窓より春を迎へる

二歳上の友が渡りてしまひたり生ある限り渡れぬ川を

さらさらと光散らして咲く桜やさしかりしよ友の面影

軍隊は為政者の手足たはやすくその銃口は民に向けらる

少年の撃たれ倒れる映像をただに見てゐる見るほかはなし

声明を棒読みにするわが政府日本列島黄砂に暗し

居てくれる幸せ告げるをためらひぬ終に子供を持たざりし娘に

幼子を抱くがに猫を抱き上げる帰省の娘のほどける笑顔

戸も窓も開け放ちたる講座室木々のそよぎと鳥の声聞く

遙かなるゴビ砂漠より飛来して今わが指に載る黒き砂

タクラマカン砂漠といふ名吹き上ぐる異国の風の響き想はず

つつぬけの医師の大声聞きてをり順番を待つ待合室に

やはらかき春の長雨止みしとき山椒の木に吹く緑の芽